

## 小児の肺炎球菌感染症：

肺炎球菌は多くの子どもの鼻やのどにいる菌ですが、保菌者の全てが発症するわけではなく、体力や抵抗力が落ちたときなどに、細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、中耳炎などいろいろな感染症を引き起こします。

肺炎球菌による化膿性髄膜炎は年間約150人が発症していると推定されています。

死亡率や後遺症例（水頭症、難聴、精神発達遅滞など）はヒブによる髄膜炎より高く、約21%が予後不良とされています。

※ワクチンの副反応：接種局所の紅斑（71.0～80.7%）、腫脹（はれ）・硬結（しこり）（64.5～74.0%）、疼痛・圧痛（7.5～16.9%）、全身反応として発熱（18.6～24.9%）などが認められています。